

問題

棚卸資産の範囲を述べた上で、棚卸資産の評価方法のうち、先入先出法、平均原価法及び売価還元法について、その特徴に言及し、それぞれ説明せよ。

解答のポイント

本年度の会計学記述の出題は、棚卸資産の範囲と評価方法であった。会計学の出題論点としては基礎的な事項からの出題であり、難易度は易しめの問題である。しかも、第 1 回公開模試の会計学記述とほぼ同一の問題であるため、きちんと学習した受講生はそれなりに書けたと思われる。棚卸資産の範囲については、記述となると意外に難しい論点であるが、白紙は避けるべきなので「棚卸資産とは例えば、商品、製品、原材料などのことである」などのように数行は書くといえよう。先入先出法、平均原価法、売価還元法については、意義を書いた上で、長所・短所についても軽く触れるのが望ましいと思われる。

解答例

棚卸資産とは、企業が販売収益を獲得するために短期的に保有する売却目的の資産及び売却を予定しないが販売活動及び一般管理活動において短期間に消費することを目的に保有する短期消費目的資産である。

具体的には以下の四つのいずれかに該当するものが棚卸資産である。第一に、通常の営業過程において販売するために保有する財貨又は用役であり、具体的には商品・製品が該当する。第二に、販売を目的として現に製造中の財貨又は用役であり、具体的には仕掛品・半製品が該当する。第三に、販売目的の財貨又は用役を生産するために短期間に消費される財貨であり、具体的には原材料が該当する。第四に、販売活動及び一般管理活動において短期的に消費されるべき財貨であり、具体的には事務用消耗品が該当する。

棚卸資産の貸借対照表価額の算定は単価計算と数量計算からなるが、単価計算の方法としては、先入先出法、平均原価法、売価還元法などがある。

先入先出法とは、最も古く取得されたものから順次払出しが行われ、期末棚卸資産は最も新しく取得されたものからなるものとみなして、期末棚卸資産の価額を算定する方法である。先入先出法は、物の流れに即した単価計算であり、期末棚卸資産は時価に近い価額で評価されるという長所があるが、損益計算上、古い単価が新しい収益に対応されるため物価変動による保有損益が計上されるという短所がある。

平均原価法とは、取得した棚卸資産の平均原価を算出し、この平均原価によって期末棚卸資産の価額を算定する方法である。なお、平均原価は総平均法又は移動平均法により算出する。平均原価法は、比較的安定的な損益計算が可能という長所があるが、総平均法は期中に単価が算定できず、また、移動平均法は事務手続が煩雑という短所がある。

売価還元法とは、値入率等の類似性に基づく棚卸資産のグループごとの期末の売価合計額に原価率を乗じて求めた金額を期末棚卸資産の価額とする方法である。この方法は取扱品種の極めて多い小売業等における棚卸資産の評価に適用される。売価還元法は、事務手続が簡便という長所があるが、算定される棚卸資産価額はあくまで見積

数値でしかないという短所がある。

以上
(904 字)

TAC 生はココで解けた！

- ・第1回公開模試（東京都 I 類 B）専門記述試験の問題とほぼ同じ。
- ・直前期オプション講座『東京都 I 類 B 対策セミナー』において予想問題の一つとして挙げている。
- ・専門記述対策会計学レジュメ P. 14 問題 8 に掲載。